古典文法トレーニング　長文課題　品詞分解と現代語訳

大問二三（出典：『宇津保物語』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

かく遥かなるほどをし歩くも苦しう覚えて、「いかでこの山にさるべき所もがな。近くて養はむ」と思ひて、山深く入りて見れば、いみじう厳めしき杉の木の四つ、物を合はせたるやうに立てるが、大きなる屋のほどに空き合ひてあるを見て、この子の思ふやう、「ここに我が親を据ゑ奉りて、拾ひ出でむ木の実をも先づ参らせばや」と思ひて、寄りて見るに、厳めしき牝熊牡熊、子産み連れて住むうつほなりけり。出で走りて、この子を食まむとする時に、この子のいはく、「しばし待ち給へ。まろが命断ち給ふな。まろは孝の子なり。親、同胞もなく、使ふ人もなくて、荒れたる家にただ一人住みて、まろが参る物にかかり給へる母持ち奉りたり。里にはすべき方もなければ、かかる山の木の実、葛の根を取りて、親に参るなり。」

◎現代語訳（『ステップアップノート３０　古典文法トレーニング』参照）